

この子らと

令和5年6月号

命輝く子ども

親子遠足後の園内研修



わくわく鹿児島中央認定こども園



園長 川口公男

「親子遠足」3年ぶりに実施



親子ふれあい活動、笑顔がいっぱいでした!!



突然の怪獣出現にびっくりしたかな?

親子遠足の目的はおおよそ3つあります。

- 一 保護者と子どもの思い出をつくる。
- 二 職員と保護者の距離を縮める。
- 三 保護者同士の情報交換・交流を深める。

26日の職員会議で「親子遠足」の反省会を実施いたしました。おおむね所期の目的は、達成できたのだと思いますが、**次の3点が主な課題**として出てきました。

- ① 「自己紹介ゲーム」等により、保護者同士の交流を図ったらどうか。
- ② 口頭や文書では、スタンプラリーが終わられた家族は、「その場で解散」とお知らせしましたが、さらに徹底するために当日、「看板等で見える化」を図ったらどうか。
- ③ 市内でも雨が降っている場所があったり等で実施の判断に迷われたご家族もあったことから、現地の状態をリアルタイムで再度、お知らせしたらどうか。などです。

次年度、親子遠足を再考して、よりよい行事にしていこうと職員で意思統一いたしました。子どものためにお仕事等調整してご参加くださり、ありがとうございました。

“大きな愛で包みたい”

母ちゃん、8人も子どもがいたら、たいへんだっただんべ。」「そりゃあ、そうさ。」「じゃ、だれか余分な子どもいた?」5番目のわたしは、あるとき不安だった。「何よ。ばかなことを言って。親にとって、余分な子どもは、一人もいないさ。そりゃあ、たいへんだけど、手をかけるから親子になれるんだよ。」

母は、わたしの頭をトンとこづいた。うれしかった10歳の思い出。

人は、「大きな愛」に包まれていると気づいたとき、素直に生きられます。「この世の最大の不幸は、だれからも自分は、愛されていないと感ずることです。」マザーテレサの言葉です。

さて、子どもたちは、職員から大きな愛で包まれていると感じているのでしょうか。そう感じていない子どもがだれ一人として、いてはならないのが本園の重点課題です。職員室には「和顔愛語」の言葉を掲示しています。



「和顔」は、やわらかな表情、「愛語」は、思いやりのあるやさしい言葉遣いです。「和顔愛語」を自らの「教師の心」として、子どもたち一人一人に関わっていくことを日々の教育・保育で進めています。



芋苗遠足を通して生きる力を

10月の芋の収穫を楽しみに、苗を植えました。苗の葉の色、農園の周りの草花の香、そよ風の音、土の感触、木陰でのお弁当、..幼児期の子どもたちに必要な心地よい刺激を自然が与えてくれます。

五感を通して、自然の中に私がいること、命があることをいくつになっても感じたいと思います。